編集後記

私たちは，2021年3月末日に，仲間の1人である二神二朗教授を見送ることになります。二神先生のご退職（Happy retirement）に際し，教育学部紀要14号は巻頭に先生の特集を掲載しております。二神先生が教育学部紀要11号（2018年）に投稿して下さった「1980年のイタリアのオペラ界事情―ミラノ・スカラ座若手団員としての出発点―．pp. 117−126.」には，歌劇の本場イタリアで，自分の可能性を確かめようとする1人の若者の挑戦が力みのない軽やかな文章でいきいきと描写されています。原稿を拝読した時，くたびれた私の内側に活力が湧き出たことを思い出します。

二神先生はまた，音楽コースの学生たちを率いて教育学部棟G階でコンサートを何度も開いて下さいました。椙山とその風景を歌詞に組み込んだ「Nel blu dipinto di blu（Volare）」や「Funiculì funiculà」はコンサートの最後を締める定番として1つの文化にもなりました。2019年12月15日のコンサートでは，椙山こども園の園児たちも交え素敵な音楽の場となりました。二神先生は，教育学部のG階の設置意義を良く理解されている教師の1人でした。先生は芸術家でありながら市井の歌い手の1人，路地感覚を備えた教師でいらっしゃいました。4月からは海の見える高松で新たな生活を始められるとのこと，四国に渡る楽しみが1つ増えました。これからも，その温顔と歌声で教育学部を見守って下さい。

二神先生の特集には，教え子の1人でもある渡邉康先生，音楽コースの中核である宮田俊雄先生の多大なるご協力を頂きました。ここに記して感謝いたします。

教育学部紀要14号には，二神二朗先生の特集に続き，原著（*Article*）13本，評論（*Review*）2本，実践報告（*Report*）5本，随想（*Essay*）2本，資料（*Data*）1本の合計23本の著作が掲載されています。随想2本は，先輩学徒の研究史です。昨年3月にご退職された宇土泰寛名誉教授からは，紀要13号に掲載された研究史の続編が届きました。常に未来に目を向ける宇土先生の若々しい感性が光ります。宇土名誉教授と同じく昨年3月に人間関係学部をご退職された田中節雄名誉教授にも執筆をご快諾いただき，理科系の高等専門学校から始まる一教育学者の若き時代を描いていただきました。田中教授の研究の歩みを俯瞰する著作目録も興味深い資料になっています。

2021年4月からは，椙山女学園大学教育学部に「特別支援教育コース」の設置が予定されています。保育，初等教育，数学教育，音楽教育に続く，第5のコースとなります。このコースの設置が，椙山に新たな学びと研究の文化を育み，この教育学部紀要の多様性を高めてくれるであろうことを期待しています。

（野崎健太郎：椙山女学園大学教育学部紀要第14号　編集委員長）

椙山女学園大学　教育学部紀要　第14号

2021年3月1日発行

編集者　椙山女学園大学教育学部
紀要編集委員会

編集委員
野崎健太郎（編集委員長）

発　行　椙山女学園大学教育学部
名古屋市千種区星が丘元町17番3号
〒464−8662　TEL 052−781−1186

印　刷　株式会社あるむ
名古屋市中区千代田3丁目1−12
〒460−0012　TEL 052−332−0861